

創設20周年記念講演会アンケート集計結果

1998年11月10日、新潟市万代市民会館において、新潟大学積雪地域災害研究センター創設20周年記念講演会が実施された。講演会は、「新潟の災害と防災」をテーマとしたものであり、会場には約100名あまりの来場者があった。この際、会場内において来場者にアンケートの協力を依頼し、66名の方から回答と御意見・コメントを頂いた。

アンケートは、実施した講演会や自然災害に関する質問と積雪地域災害研究センターへの要望に関する質問を設定した。この結果と頂いた御意見・コメントは、災害研究・教育に関する課題と積雪地域災害研究センターの取り組むべき課題を検討する基礎資料として活用するものである。

なお、アンケートにご協力頂いた来場者の皆様に記して謝意を表します。

1. アンケートの内容

講演会において実施したアンケートの質問内容は以下の通りである。

質問1 “性別をお答えください”

回答項目：男性，女性。

質問2 “ご年齢（年代）をお答えください”

回答項目：10歳代，20歳代（学生），20歳代（一般），30歳代，40歳代，50歳代，60歳代。

質問3 “ご職業をお答えください”

回答項目：学生，会社員，公務員，自営業，無職，その他。

質問4 “本日はどちらからお越しですか”

回答項目：新潟市，新潟市近郊，その他。

質問5 “本日の講演会をどのようにして知りましたか”

回答項目：新聞・テレビ，新潟市の広報，ポスター・チラシ，人から聞いた，その他。

質問6 “本日の講演で興味を持った分野・内容は何ですか（複数回答）”

回答項目：雪の災害，水の災害，土砂災害，地震災害。

質問7 “このような講演会をどう思われますか（複数回答）”

回答項目：今後も続けてほしい，書籍・冊子等でも知りたい，あまり関心がもてない。

質問8 “自然災害に関心がありますか”

回答項目：深く関心がある，関心がある，身近におこったときに関心がある，関心がない，
どちらともいえない。

質問9 “積雪地域災害研究センターの研究内容をご存じでしたか”

回答項目：知っていた，本日知った，知らなかった。

質問10 “今後，積雪地域災害研究センターに取り組んで欲しい研究分野は何ですか（複数回答）”

回答項目：地震予知，地震災害，地盤沈下・地盤災害，火山噴火・火山災害，地すべり・崖崩れ，土石流災害，洪水災害，雪崩災害，雪氷災害，気象災害，地球環境問題，環境破壊，環境汚染，水質汚染，生態系の保全，酸性雨・酸性雪，その他。

質問11 “積雪地域災害研究センターあるいは本講演会に対して御意見・コメントをお願いいたします”

回答項目：（自由書式）

2. アンケートの回答および御意見・コメント

以上の質問に対して、回答を頂いた。各質問に対する年齢（歳代）別の回答数を表-1に示す。また、質問11で頂いた御意見・コメントを原文のまま以下に示す。

アンケート集計結果

アンケート回収66名

年齢（年代）		一般 10	学生 20	一般 20	一般 30	一般 40	一般 50	一般 60	合計
性別	男性		7	9	6	17	8	14	61
	女性	1				1	2	1	5
職業	学生	1	7						8
	会社員			5	4	8	6	7	30
	公務員			4	2	7	2		15
	自営業							1	1
	無職					1	1	3	5
	その他					2	1	4	7
住まい	新潟市	1	6	5	4	10	8	13	47
	新潟市近郊		1	2	1	4	2	2	12
	その他：長岡					1			1
	その他：東京					1			1
	その他：つくば					2			2
	その他：小千谷			2	1				3
講演会をどのよう にして知りました か？	新聞・テレビ							1	1
	新潟市の広報							5	5
	ポスター・チラシ	1	4	9	5	13	6	4	42
	人から聞いた		2			5	2	4	13
	その他：市民大学		1				2	1	4
	その他：FAX				1				1
本日の講演で興味 を持った分野・内 容は何ですか （複数回答）	雪の災害		5	4	2	3	2	4	20
	水の災害		6		3	3	3	4	19
	土砂災害			6	3	12	6	5	32
	地震災害	1		5	5	10	5	4	30
このような講演会 をどう思われます か （複数回答）	今後も続けてほしい		5	8	6	15	8	13	55
	書籍・冊子等でも知 りたい	1	2	1	1	4	1	3	13
	あまり関心がもてな い								0
自然災害に関心が ありますか	深く関心がある		5	5	4	11	8	10	43
	関心がある		2	4	3	7	1	4	21
	身近におこったとき に関心がある	1						1	2
	関心がない								0
	どちらともいえない								0
センターの研究内 容を知っています か	知っていた		4	8	4	13	5	9	43
	本日知った	1	3		2	2	2	5	15
	知らなかった			1		3	3	1	8
センターに今後取 り組んで欲しい分 野はなんですか （複数回答）	地震予知	1	1	1	3	7	2	4	19
	地震災害	1	1	5	4	7	3	2	23
	地盤沈下・地盤災害			1	2	5	2	5	15
	火山噴火・火山災害					1		3	4
	地すべり・崖崩れ		1	3	4	8	5	2	23
	土石流災害		3	3	2	7	5	4	24
	洪水災害		3	2	2	4	5	1	17
	雪崩災害		3	1	1	4	1		10
	雪氷災害	1	4	1	1	2	2	3	14
	気象災害	1	5	3	1	2	2	3	17
	地球環境問題	1	1	2	2	6	5	3	20
	環境破壊			3	4	5	3	1	16
	環境汚染		2	4	2	3	1	3	15
	水質汚染	1	1	2	1	2	3	1	11
	生態系の保全	1	1	2	3	3	4	1	12
	酸性雨・酸性雪	1		2	2	3	3	4	15
	その他：地質汚染			1					1
	その他：融雪					1			1

表-1

(1) 質問11で頂いた御意見・コメント（原文）

- 1995年の新潟県北部地震の時に当センターが調査をするというニュースを聞いて、地震についても研究していることをはじめて知った。研究内容が全て表現できる施設名がないであろうか。雪崩についてしか研究していないイメージが私には当時あった（20代、学生）。
- こんなことも研究するところがあるんだと改めて感心した（20代、学生）。
- 当研究所の略名でよく“災害研”と略されているが、“雪域研”など雪の名の付いた略称でもよろしいと思います（20代、学生）。
- 講演の対象者（住民、学生、行政）を検討する必要があると思う（20代、公務員）
- 定期的にこういう場をもうけてほしい（20代、会社員）。
- 大学付置研が公開の研究発表会を開くことに大いに賛同します。専門家間のインターアクションだけでなく、地元機関・住民とのつながりを緊密にすることが、すべての研究教育機関に求められていると思います（40代、公務員）。
- 今後も続けるべきである（40代、公務員）。
- 当機関の存在を知ったばかりですが、どこにあるとかどんな情報を提供してもらえるかなど具体的に幅広くPRしてもらいたいものです（40代、自由業）。
- 内容的に非常に分かりやすく好感もてる講演会であったと思う。防災に関する内容がもっと欲しかった。毎年、防災の日に公開講演会をやってはどうか（40代、会社員）。
- 格調高い講演会だ。もっともっとPRすべきと思う（50代、団体職員）。
- 20周年記念の講演会にしては説明、解説、資料等に不足が目立った。少なくとも予行を重ねる（特に午前の部）必要が有るのでは？御努力ください（50代、会社員）。
- 行政と貴研究センターはつながりと反映の関係はなされていますか（50代、会社員）。
- 発生メカニズムに関する報告が多く防災対策（都市におけるインフラ復旧、耐久性等）が少ない。幅広い報告を望む（50代、公務員）。
- 災害が起きてから1カ月後、報告会（発表）してもらいたい（60代、その他）。
- 電子メール等で質問を受けられるような配慮を望む（60代、無職）。
- もっと多くの皆様がこの講演会を聞かれたら良いと思います（60代、会社員）。
- 新潟市内・県内在住者では、新潟大学にセンターの有無存在すら知らない人が多い。もっと広報活動をしてほしい（60代、その他）。
- 研究範囲を広げるべきである（60代、会社員）。
- 県の防災諸団体とタイアップして上越の災害多発地帯にも関係されたい（60代、自由業）。
- もっと時間的な余裕を。時間に制約されていて、時計をみながらの講演は説明図を捲る時間も惜しいような感じを受けました。したがって、言葉の説明は学術的で正確なものではありますが、受講者にはついていけないところがあったのではないかと思います（60代、無職）。
- 受講する立場からして、1講座の持ち時間を2倍にすることで、先生方のお話をゆったりした気持ちで聞くことができます。専門用語の説明も、地図や表などの説明も、判りやすく、見やすくなってくるように思われます（60代、無職）。

- 平日で、講座を午前部と昼食を挟んで午後の部分けるのがよいか対象を何処におくかによりますが、できれば働き盛りの中層年連中にも聞いて欲しいように思われました。そう考えると、土日の日中または夜と言うことになりますが、ご検討いただけないものでしょうか（60代，無職）。
- 受講者は学術的なものに触れてみたいと言う気持ちと、現在、直面している災害（水害，地盤沈下，抜け上がり現象，家屋の地震対策等）についての関心は非常に高いので，分散でなく，まとめた講座があっても良かったように思います（60代，無職）。



3. アンケート結果の検討

アンケートの結果に対して若干の検討を加えた。

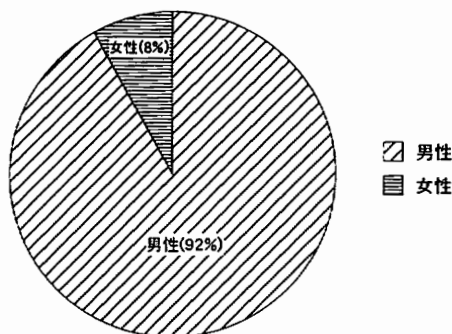


図-1 性別

質問1：性別をお答えください（図-1）。

アンケート回答者の約90%が男性、約10%が女性であった。今回の講演会は“新潟県内の自然災害と積雪地域災害研究センターの研究紹介”を行なう目的で、研究者・防災関係者を対象とせず一般を対象として土曜ないしは日曜の開催を企画していたが、会場の都合から平日の開催となった。このため、女性、特に主婦層の来場者が少なかったものと思われる。

質問2：ご年齢（年代）をお答えください（図-2）。

40歳代、50歳代、60歳代の中高年の占める割合が大きかった。

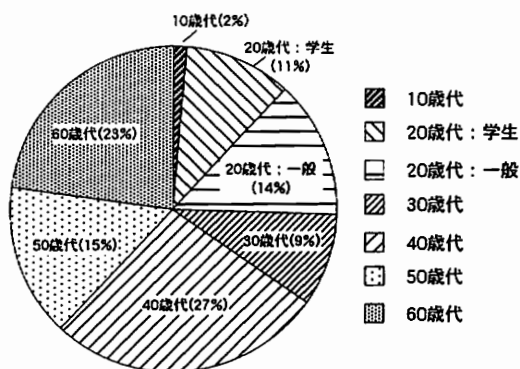


図-2 年齢構成

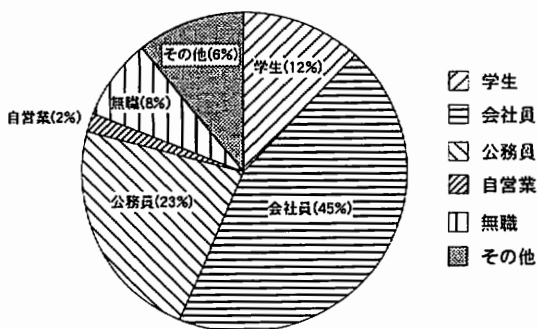


図-3 職業別構成

質問3：ご職業をお答えください（図-3）。

職業別にみると会社員、公務員の来場が全体の70%あまりを占めた。平日の開催であったため、官公庁や土木・地質・防災関連会社の関係者が相対的に多くなった。

質問4：本日はどちらからお越しですか（図-4）。

新潟市内や新潟市近郊からの来場者がほとんどであった。講演会の案内は、県内全市町村に配布しているが、遠隔地からの来場は実質的に困難であることが予想される。今後、新潟市内のみではなく他地域にも会場を設定して、幅広く講演を普及させる必要がある。

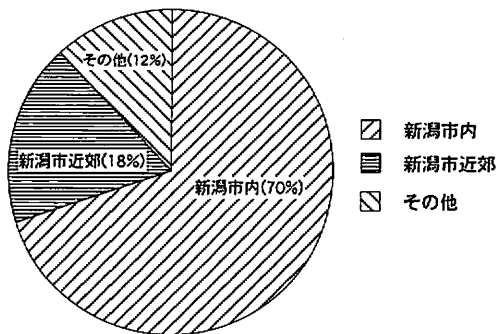


図-4 居住地別構成

質問5：本日の講演会をどのようにして知りましたか（図-5）。

ポスター・チラシによるものが約60%であった。講演会の開催案内として、ポスター・チラシは、県内の全市町村、土木・地質・防災等関連会社および団体、市内の公共施設・公民館等に配布し掲示を依頼した。また、新聞・テレビ等の報道機関、新潟市報等に開催案内の掲載を依頼した。結果として、ポスター・チラシによる効果が大きかったが、新聞・テレビ等の報道機関、新潟市報等もより活用し、開催案内の普及方法・時期（期間）等を検討する必要がある。

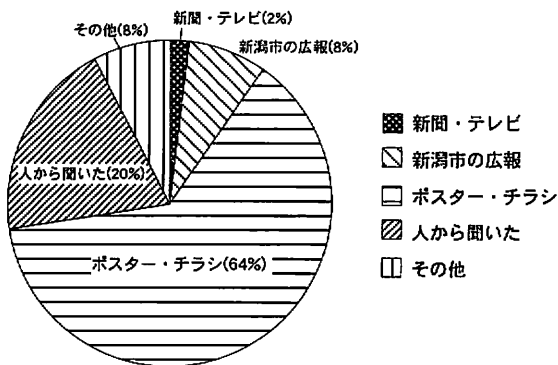


図-5 講演会開催情報の入手手段

質問6：本日の講演で興味を持った分野・内容は何ですか（複数回答）（図-6）。

土砂災害、地震災害への関心がやや高かった。頻度の大きい災害として、土砂災害が目玉されている。地震災害の発生頻度は低いですが、1995年の阪神・淡路大震災や新潟県北部地震等により関心が高いものと思われる。また、1998年8月の新潟市および近郊の水害への関心も高かった。

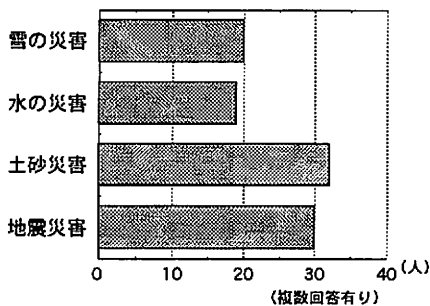


図-6 講演会で関心を持った分野・内容

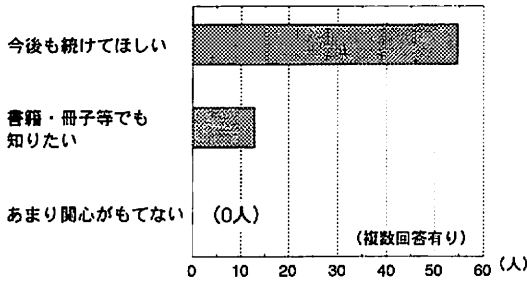


図-7 講演会の感想

質問7：このような講演会をどう思われますか（複数回答）（図-7）。

今後も続けてほしいという希望が多かった。また、書籍・冊子等でも知りたいという希望もあった。質問11の御意見・コメントの中でも、同様の意見・希望が多かった。

質問8：自然災害に関心がありますか（図-8）。

“深く関心がある”、“関心がある”という回答がほとんどであった。質問7も同様であるが、自然災害に関する講演会であるので、基本的には関心をもった方が来場しているものと思われる。より一般的な機会において、このような講演会への関心、自然災害への関心を問い一般世論の中での自然災害に対する関心の度合を把握する必要がある。

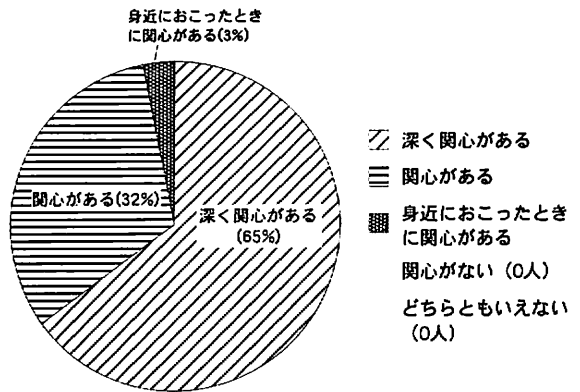


図-8 自然災害への関心

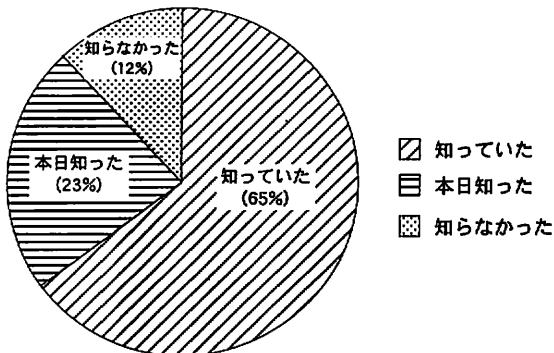


図-9 センターの研究内容を知っていたか

質問9：積雪地域災害研究センターの研究内容をご存じでしたか（図-9）。

積雪地域災害研究センターの研究内容を知っていたという回答は全体の60%程度であり、研究内容を積極的に地域に公開していく必要がある。また、地域と連携して災害に関する研究をすすめ、災害の対策の推進や防災意識の啓蒙をはかる必要がある。

質問10：今後取り組んで欲しい研究分野はなんですか（複数回答）（図-10）。

今後、積雪地域災害研究センターに取り組んでほしい研究分野としては、現在のセンターにおいても取り組んでいる研究内容（地震災害、地盤災害、地すべり、土石流災害、雪崩災害、雪氷災害など）を継続して取り組んでほしいという意見が多かった。これらの災害は、センターの発足以来取り組んでいる問題であるが、現在までにすべて解決したわけではなく、より多様化・複合化する災害に対して潜在的なニーズと研究の必要性が高いことを示している。

また、今後の課題として、地球環境に関する諸問題群（環境破壊、環境汚染、水質汚染、生態系の保全、酸性雨・酸性雪など）へ積極的に取り組んでほしいという期待が多く、センターにおいても今後検討していかねばならない課題である。

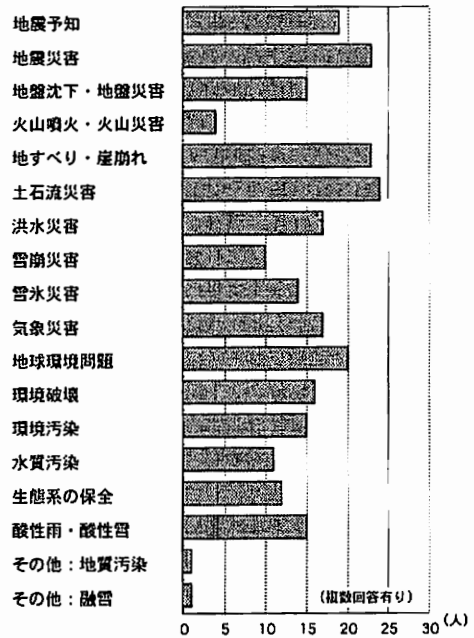


図-10 センターに今後取り組んでほしい研究分野

質問11：センターあるいは本講演会に対して御意見・コメントをお願いいたします。

積雪地域災害研究センターあるいは今回の講演会に対して多数の御意見・コメントを頂いた（コメントの原文は上述）。今回のような普及的な講演会を今後も開催してほしいという御意見が多くみられた。また、講演会の開催PRの在り方、開催場所、日程、時間配分、講演の対象、講演内容などに関して多数の御意見を頂いた。

今後、これらの御意見を反映させ、センターの在り方、センターと地域社会との連携、災害研究教育の推進と防災意識の啓蒙などの課題に積極的に取り組む必要がある。

